

平成27年度 第1回
北海道立総合博物館協議会
アイヌ民族文化研究センター専門部会

議 事 録

日時：平成27年11月10日（火）

13時30分 開会

場所：北海道庁本庁舎 7階 共用B会議室

平成 27 年度 第 1 回北海道立総合博物館協議会
アイヌ民族文化研究センター専門部会議事録

会議名	平成 27 年度 第 1 回北海道立総合博物館協議会
開催日時	平成 27 年 11 月 10 日 (火) 13 時 30 分～15 時 05 分
開催場所	北海道庁本庁舎 7 階 共用 B 会議室
出席委員数	5 名出席 (欠席 1 名)

※・単なる相づち及び言い直しなどは、原則として割愛する。

・丸括弧で補足的な説明を記した。

・内容に応じて《意見・提案》、《質疑応答》等の見出しを便宜的に作成した。

目 次

1 開会.....	1
2 館長あいさつ.....	1
3 アイヌ民族文化研究センター専務部会委員紹介.....	2
4 加藤部会長のあいさつ.....	3
5 議題.....	4
議題 (1) 北海道立総合博物館協議会の報告.....	4
《事務局説明》.....	4
《質疑応答 1》.....	6
《質疑応答 2》.....	6
《質疑応答 3》.....	7
議題 (2) アイヌ民族文化研究センターの事業計画.....	7
《事務局説明》.....	7
・平成 26 年度北海道立アイヌ民族文化研究センター事業報告.....	8
・アイヌ民族文化研究センター事業推進方針補訂案の説明.....	9
《質疑応答 1》.....	13
《質疑応答 2》.....	13
《意見・提案 1》.....	13
《質疑応答 3》.....	14
《質疑応答 4》.....	14
《質疑応答 5》.....	15
《事務局説明》.....	15
議題 (3) 今後のスケジュール (案).....	17
議題 (4) 意見交換・情報交換.....	17
《意見・提案 1》.....	17

《意見・提案2》.....	18
《意見・提案3》.....	19
《意見・提案4》.....	19
6 閉会.....	20

1 開 会

右代学芸主幹 それでは時間になりましたので、平成27年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会を開催致します。開催にあたりまして今回の司会を務めさせていただきます右代でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

それでは石森館長の方からご挨拶お願い致します。

2 館長あいさつ

石森館長 北海道博物館館長を勤めております石森でございます。本日は大変ご多用の中をご参集賜り本当にありがとうございます。私共の北海道博物館この4月1日付けで発足致しております。皆様方ご存知の通りでございますけれども、2つの道立施設を統合して出来たものでございます。1つは北海道開拓記念館、これは1971年に開館しております。それともう1つは、1994年に開所いたしました道立アイヌ民族文化研究センター、この2つを統合致しまして北海道博物館が出来たわけでございますけれども、条例上は北海道立総合博物館条例に基づいて、設置がされたものでございまして、この北海道立総合博物館条例に基づきまして博物館協議会を設置して様々なアドバイス等々を頂くという形でございます。

皆様方に高橋知事からの辞令を施行させていただきましたけれども、皆様方のこの部会につきましては北海道博物館の中の特にアイヌ民族文化研究センターを付置しておりますので、これにつきまして、すでに中期目標計画、年度計画等々を定めておりますので、皆様方には北海道博物館の中のアイヌ民族文化研究センター並びにアイヌ民族文化に関わる諸々の事項につきまして、ご指示を頂きご意見を頂く、そして知事の附属機関という形で設置しておりますので、皆様方から頂く様々なご意見ご提言につきましては、知事の方に挙げて、この北海道博物館に付置されておりますアイヌ民族文化研究センターがより良く成果をあげられるような形をとっております。

4月1日にスタートしておりますので、その間の今日に至る経緯につきましては、アイヌ民族文化担当の副館長を務めております中村の方から少し説明をさせていただきます。

中村副館長 皆様どうぞ宜しくお願い致します、中村でございます。センターの近況につきまして、大きな変化という観点からお話致します。1つはそれまでは調査研究主体ということでしたけれども、それに博物館運営という大きな業務が加わっております。それからもう一つの大きな変化、これは発信力、これが強化されたということでございます。最初の博物館運営、業務内容の事について言いますと、統合作業やオープン準備、オープン後の展示会、それから視察団の受け入れ、それから特別展示、オープン初年度でもありまして、博物館運営中心の活動ということが続いております。それから発信力の強化ということにつきましては、音声、映像を含め展示の機能を持った、これが非常に大きなことだと思います。受信者が大衆化していますし、受信者との距離がぐっと縮まっております。我々としましてはこれまでの蓄積に加えて、こうした強みを充分生かして進めて行きたいと考えております。博物館に統合されまして、大きく変わっておりますけれども、私共としましては博物館の一体感を損なわない中で、センターとしても一定の主体性を保持して進めて行きたいと考えております。委員の皆様のご指導ご叱正を頂ければ幸いに存じます。本日は宜しくお願い致します。

《資料確認》

右代学芸主幹 宜しくお願い致します。それでは資料の確認をさせて頂きたいと思います。お手元の資料を見て頂きたいのですが、まず始めに会議の次第が表紙にあるかと思います。その後資料1-1、それから資料1-2、それから資料2、資料3、資料4、資料5、資料6-1、それから資料7、最後に参考資料ということで資料が揃うと思いますが間違いないでしょうか。もしくは間違いがあればですね、仰って頂ければ資料を差し替えたいと思います。

中村副館長 順番が違ってる。

小川センター長 三つ折のものが最後に来ているので。

右代学芸主幹 三つ折りのものが一番最後にまとめてあるということです。

委員 はい、わかりました。

右代学芸主幹 順番が申し訳ございませんが、バラバラになっているかと思います。お許しください。

3 アイヌ民族文化研究センター専務部会委員紹介

右代学芸主幹 それでは委員の紹介に移りたいと思いますが、まず資料1-1を見て頂きたいのですが、これは北海道立総合博物館協議会の委員の名簿が載っておりますが、佐々木亭会長はじめ、加藤忠副会長、宇佐美暢子委員、大原昌宏委員、児島恭子委員、竹垣吉彦委員、本田優子委員ということでこの協議会があります。その分会として資料1-2を見て頂きたいのですが、今回の会議を進めているメンバーでございますが、大島稔委員、まだ到着しておりませんが大島委員、それから加藤忠副会長、児島恭子委員、酒井奈々子委員、澤田一憲委員、関根真紀委員ということで、このアイヌ民族文化研究センター専門部会特別委員名簿ということになっておりますが、今後いろいろとお世話になるかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

この裏側の方をちょっと見ていただきたいのですが、今日の出席している職員をご紹介致します。まず、北海道環境生活部くらし安全局文化・スポーツ課主幹で堀籠でございます。

堀籠主幹 宜しくお願い致します。堀籠でございます。

右代学芸主幹 続きまして、遠藤でございます。

遠藤主査 遠藤です。宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 続きまして、北海道環境生活部アイヌ政策推進室鈴木でございます。

廣畑主幹 鈴木欠席で、わたし廣畑でございます。宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 失礼いたしました。廣畑さんです。宜しくお願い致します。先ほどご挨拶頂きました、石森館長でございます。

石森館長 宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 担当副館長の中村でございます。

中村副館長 宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 続きまして総務部長の北でございます。

北総務部長 北でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 アイヌ民族文化研究センター長小川でございます。

小川センター長 小川です。宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 続きまして、総務部企画グループのこの事務局をしております右代ございま

す、宜しくお願い致します。続きまして、学芸部社会貢献グループの甲地でございます。

甲地研究主査 甲地です。宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 学芸部道民サービスグループの出利葉でございます。

出利葉学芸員 出利葉でございます。宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 総務部企画グループ学芸主査の会田でございます。

会田学芸主査 事務局を担当しております、会田と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 同じく研究職員の田村でございます。

田村研究職員 田村です。宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 こういうメンバーで今日会議を進めさせて頂きますので、どうぞ宜しくお願い致します。それでは式次第に沿って進めさせて頂きたいと思っております。部会長のご挨拶を頂きたいのですが、すでに親会の方で協議会の方でこの専門部会の方の会長ということで、8月にすでに部会長ということで任命されておりますので、部会長の方からご挨拶をお願いして、親会の方も兼任させて頂くということになります。それと児島委員でございますが、児島委員も両方兼ね備えて頂いて、親会とこの分会を繋いで頂く役割になりますので。まず部会長の方からご挨拶をお願いしたいと思っております。

4 加藤部会長のあいさつ

加藤部会長 皆さんどうもご苦労様です。今日北海道博物館の皆さんの方が人数多いんだからご苦労様だなど。石森館長から先程挨拶がありましたけれども、非常に北海道博物館が北海道に馴染んで、最近「夷酋列像」展が非常に好評で良かったのではないかと。新聞報道を見ると。

石森館長 はい、5万1千人を越える方に観覧して頂きました。

加藤部会長 (新聞報道を見ると) 5万1千人を超えと言ってますから、北海道博物館の位置付けが大きくなって来たかなと私はそう思っていて見ていましたし、本当に色々な意味で良かったと思って感じております。私この部会の部会長をやれて、ふさわしくないかあるかは別にして、部会長って言わなくたって会を進めるということにしてもらえれば有難いなと思っております。アイヌのことについてということですから、アイヌのことは別に詳しくはありませんけれども、アイヌ協会の理事長をやっているというのが故にそういうことに幅広く皆さんと共に、今後の北海道博物館共々一緒に協力してやっていければ有難いなと思っておりますので、児島さん宜しくお願い致します。それでは以上です。どうぞ進めてください。

右代学芸主幹 ありがとうございます。児島委員は親会の方の委員も兼ねておりますので、部会長を支えて頂きながら、いろいろな形で進めて頂ければと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。一言あればどうぞ。

児島委員 突然言われましたが、加藤さんがとても包容力のある方だと伺っておりますので、私はどちらかと言うと嫌われ役に徹して言いたいことを言わせて頂きたいと言うように思います。どうぞ宜しくお願い致します。

右代学芸主幹 宜しくお願い致します。今回の委員会ですが、一応北海道立総合博物館条例の中で、この会議については、2分の1以上の議員の方の出席ということで、部会についてはあまり特に(規定は)ないのですが、それに準じて行いたいと思っております。ただいま大島委員がまだいらっしゃっていませんが、そういう形で大会は成立、会議は成立しているということで進めさせて頂きたいと思っております。宜しいでしょうか？

加藤部会長 では、お願いします。

5 議題

議題（１）北海道立総合博物館協議会の報告

〈事務局説明〉

右代学芸主幹 はい、それでは早速でございますが、議題の方へ進みたいと思います。続けて私で宜しいでしょうか？

加藤部会長 はい。

右代学芸主幹 はい。時間もですね、（終了時間が）3時ということで。

加藤部会長 あなた、立ってやるの？

右代学芸主幹 座って宜しいでしょうか？

加藤部会長 座ってやった方がいい。

右代学芸主幹 ありがとうございます。進めさせていただきます。お手元の資料を見て頂きたいのですが、まず北海道立総合博物館協議会の報告について、事務局から報告させていただきます。

お手元の資料を見て頂きたいのですが、資料2、3、4ということで、3はA3のこの大きいになっております。4についてはこういうものがあります。この中でまずご説明致しますと、資料2を見て頂きたいと思います。親会の方は会長に先程ご紹介致しましたが、佐々木亨会長・加藤忠副会長ということで成立されております。

その中で議題の（2）ということで、北海道立総合博物館協議会運営要綱についてご報告させてご承認頂いております。それから、北海道立基本的運営方針についても、お話し、ご報告させて頂いております。それから北海道博物館中期目標・計画について説明して、これについても色々な意見がございましたが、説明しております。

その議題（3）、（4）について委員からの意見ということで、3つほど挙がっておりますが、一番初めのは、道民を意識した書きぶりになっているので、もう少し道内あるいは道外の方、こういう方の期待も大きいのではないかとということで、もっと幅広い書き方にしてはどうか、というようなこともご指摘されております。それから、道立開拓記念館の実績がどのように総括されたのかというのが、さらにどう発展していくのかということが、方針の中で読み取りづらいので、それを明確にしたらどうかということがご指摘されております。それから、外部評価についての観点でございますが、基本的には外部評価について諮問をして頂くということになっておりますので、そのスケジュールに関して、権限に関すること、或いは組織構成・人員配置について組織の成り立ちについて基本的なデータを提示して欲しいというようなことが、委員の中から多くの意見を頂いております。

議題（5）のところに移ります。ここでは北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会ということで、設置を認めて頂いております。この中では専門部会の委員としては、加藤委員それから児島委員を兼務させて頂いて、既にこの中から加藤委員が先程ご紹介致しましたが、副会長として佐々木会長から指名を受けているということで、今回の進める中でご紹介した所でございます。

それから議題の（6）でございますが、議題の（6）は「北海道博物館評価実施のあり方について」ということで諮問をしております。これについては、年3回位の会議でございますので、なかなかきちっとした在りかたについて、色々議論が出来ないのではないかと指摘が

ございまして、作業グループを設置しております。会長を始め大原委員、竹垣委員の3名と事務局、それから館長、副館長含めて、作業部会を組織して第一回の作業部会を開催しているところでございます。この中でこれからどのように評価していこうかということ、(作業部会の議論の中で)進めていこうと考えております。

今、内部評価あるいは外部評価と評価制度を導入しながら、博物館の評価をどのようにしていこうかということを検討している段階でございます。詳しく決まりましたら、ご報告していきたいと思っております。

(7)の「今後のスケジュール」についてということでございますが、これについては先程の作業部会も含めて、どのように評価していこうかということも色々議論している所の最中でございます。後ほど専門部会の方のスケジュールと合わせて、ご説明したいと思っておりますので、ここでは簡単に済ませたいというように思っております。

ということで、第一回の北海道立総合博物館協議会の議事の概要でございますが、このような形になっております。

資料3を見て頂きたいのですが、「北海道博物館基本運営方針」というのがございます。この中で3つに分かれていると思うのですが、「基本運営方針」というのが一番向って左側の方に書いております。「使命・基本方針」というのが書いております。これに基づいて「第1期中期目標・計画」というのが平成27年から平成31年にかけて計画しているのが、丁度真ん中の所に出てるかと思えます。平成27年度の計画でございますが、一番右側のところに書いてる内容でございます。

資料をお送りしておりますので、読んで頂けると思うのですが、ここで一番見て頂きたいのが、例えば展示の所で「目標数値」というのが書いてあるかと思うのですが、総合展示室の利用者がどのくらいの人数を見て頂くのかという目標数値を書いてあります。これが5年間の目標と年度の目標について右と中央の所に書いてあるかと思えます。それから「企画展示の開催」についてということで5年間の目標と年度の目標が書いてあるかと思えます。総合展示の方と特別展の方の目標数値を立てて進めたいなというのが、この中期目標計画・年度計画であります。細かいところを説明しますと、時間が結構かかってしまいますので、2枚目の所も数値目標のところを見て頂きたいのですが、四角で囲っている所でございますけれども、イベントの参加者数がどのくらいか、5年間の目標数値と年度目標を立てております。

それから「はっけん広場」、これは新しく設置したところでございますが、かつては体験学習室という所でいろいろな行事をやっていたところでございますが、ここでも同じような形で新しくはっけん広場ということで、はっけんキットというのを作って、いろいろな体験学習を展開しているところでございます。年間目標が書いてありますが、5年間の目標、それから右側には年度目標ということで、年度目標は約2万人ということを考えておりまして、5年で10万人という計画を立てております。

次の所も次のページも広報の関係でございますが、ホームページのアクセス件数をどのくらいにもっていこうかと様々な仕掛けの中でやっていきたいと思っております。真ん中の所の「10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握」、これは博物館を利用して頂いてどのくらいの方が満足していただけるのか、その70%の基本的な満足度を求めるような形で様々な活動を展開して行って、評価をして頂くという形で考えております。尚且つ、この辺のところはオーディエンス・リサーチ等の中で調査をしながら、数値を明確にしていけると考えています。

それから、下のところにありますが、「博物館交流の促進」ということで5年間で約200件道内の市町村との様々な連携・協力を図って行きたい。年度ではだいたい40件くらいと考えておりますが、数値目標を立てながら、この5年間進めていきたいということで親会から承認を頂いた形です。これについてどのように評価していくかは親会の方で進める形ですので、ご了解頂けたらと思います。宜しいでしょうか？

加藤部会長 はい。

右代学芸主幹 資料4を見て頂きたいのですが、これは私の方で宜しいでしょうか？北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会の設置についてということで、こういうことをお願いしたいというのが下に書いてあります。

「1. 設置について」、北海道立総合博物館条例第26条に基づき、アイヌ民族文化研究センターの運営および中期目標・計画と年度計画におけるアイヌ民族文化関連項目に関する調査審議を行うため、本協議会に「アイヌ民族文化研究センター専門部会」を設置することとする、ということでございます。これが設置の大きな目的になると思います。

それから、「2. 付託事項」でございますが、本専門部会における付託事項は、以下の通りですということで、3項目挙がっております。

- ①北海道博物館アイヌ民族文化研究センターの運営方針および中期目標・計画、年度計画について
- ②北海道博物館の中期目標・計画、年度計画のうち、アイヌ文化関連項目について
- ③これらの事業の評価について

この3番目でございますが、評価についてはこれからどのように評価していこうか作業部会の方で色々協議をしておりますので、それはまた会長を含めてご相談しながらこの付託については進めさせて頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。

《質疑応答1》

加藤部会長 何か質問があればどうぞ。

児島委員 質問。資料4、これは今回認めるということですか？

右代学芸主幹 こういうことをこの協議会で作業としてお願いするということです。

児島委員 「設置することとする」とは誰が、いわゆる親会議ですか？

右代学芸主幹 はい。親会議です。

《質疑応答2》

児島委員 それで結局私たちが何をするというのはわかってます？委員の皆さん。私たちが何をするかを知りたくて第一回のこちらにいますが、ここに今右代さんが目的は「1. 設置について」の説明でこれが目的になりますと仰ったのですが、確かに「行うため」と書いてありますが、調査審議を行うためのその調査とは何だろうと思うのですが、この文章がそのまま私たちの仕事になるのであれば、内容がよくわからないとそのために設置されると言われても困るのですが。

右代学芸主幹 調査審議というのが何かと言いますと、下の2の付託事項についてということで、この①②が私たちが提示するような色々な中期計画とか中期目標とか年度計画とか、そういうものについてこれでいいのかというようなことを、意見を述べて頂くというような形にな

るかと思えます。尚且つその事業について調査するという事ですので、様々な中で、アイヌ文化が本当にうちの博物館の中で研究センターの中で上手く動いているのかどうか、逆に評価の中でして頂くような形になります。

児島委員 「調査」というのに引っ掛かるのですが。

右代学芸主幹 具体的に調査で何をしたいのか、そういうことにはならないと思えますので、例えば逆にこういう資料が必要だとか、こういう物が必要とかであれば、それは事務局の方で用意をして、これでいいのかと審議して頂くような形になります。(調査審議頂くことは)基本的には、いわゆる中期目標・計画、年度計画でございます。その中でアイヌ民族に関してどのように調査審議をして頂くか、その評価の中で A なのか B なのか C なのか、これからそういうのを決めていきたいと思っておりますので、そういう評価を具体的に決まった段階で進めさせて頂きたいと思えます。

加藤部会長 宜しいですか？

児島委員 はい。

《質疑応答3》

児島委員 2番の①ですが、運営方針についても意見を申し上げるということですか？

右代学芸主幹 はい。そうです。

加藤部会長 あつたらの話です。なければないで。

右代学芸主幹 宜しいでしょうか？そういうことで進めさせて頂きたいと思えますので宜しくお願いします。

議題(2) アイヌ民族文化研究センターの事業計画

《事務局説明》

右代学芸主幹 それでは議題2ということで、アイヌ民族文化研究センターの事業計画についてご説明したいと思います。小川さん、お願いします。

小川センター長 資料5で議題2のアイヌ民族文化研究センターの事業計画について説明させていただきます。本題に入る前に、先程当館の中村副館長からお話がありましたように、昨年度まで道立のアイヌ民族文化研究センターということで運営させて頂いておりまして、その間道立のアイヌ民族文化研究センターの運営協議会ということで澤田委員、加藤理事長にはご意見を頂いてきて、今回新しく統合して北海道博物館になりましたけれども、以前の研究センターの事業を今回北海道博物館の中にどういった形で継承していき、どういったところが膨らんでいくのか、ある程度見える形でお示したほうが良いかと思いましたので、資料としては旧来の道立のアイヌ民族文化研究センターの事業推進方針に、ある程度肉付けする形で資料を作らせて頂いております。

先程中村副館長からお話がありました通り、従来の研究センターは文字通り研究センターということで、調査研究を行うということを中心とした事業としておりまして、博物館になったということに伴って新しく展示という事業が加わり、また博物館という器を使った色々な形の講座・講演会・ワークショップといった事業も増えてきましたので、そういったところを中心に膨らませる形としております。

最初に少しご説明しておきますと、先程こちらに出席している職員の紹介を致しましたが、

道立のアイヌ民族文化研究センターは主にアイヌ語や口承文芸、伝統的な芸能といったところを中心に、研究職の職員、定員6名でございました。今回北海道博物館となったことに伴いまして、まず研究職・学芸職の職員が増えております。先程紹介がありました中で言いますと、私の他、甲地研究主査、それから田村研究職員、出利葉学芸員、この他今日仕事の都合で博物館に残って業務をしておりますが、アイヌ語担当の大谷研究職員、同じくアイヌ口承文芸担当の遠藤研究職員、アイヌ民具担当の大坂研究職員の総勢7名の職員の体制になり、この他非常勤研究職員ということで、毎週1度研究センターに来ていただき、私共にご指導ご鞭撻を頂くということで、皆様お名前等ご存知と思いますが、北海道大学アイヌ・先住民センターの特任教授佐々木利和先生と、アイヌ語を専門にしておられます札幌学院大学の奥田統己先生のお2人に来て頂いており、総勢こういった体制で仕事をしております。今日は直接深く触れる事はありませんが、お配りした資料の一番最後の紙に参考資料ということで北海道博物館全体の人員の体制とそれぞれのところはこういった分掌事務を担っているかという一覧表がございます。その中の一番下のところが、今ざっとご紹介したアイヌ民族文化研究センターのメンバーと、担っている主な業務でございますのでご覧いただければ有難いと思います。

それでは本題に入ります前に、昨年度平成26年度の道立アイヌ民族文化研究センターの最終年度に当たりますけれども、この年度の事業報告につきまして、田村研究職員の方から説明させていただきます。

・平成26年度北海道立アイヌ民族文化研究センター事業報告

田村研究職員 それでは簡単にご説明させていただきます。資料5をご覧ください。研究センターの事業自体は、今小川さんから説明がありましたように研究推進方針に則ってやっております。本数としては調査・研究、資料公開、普及事業等々がございます。上の方からいかせて頂きます。研究課題につきましては昨年度は7本でございましたが、平成26年度は8本と致しました。加わったのは一番最後にあります8でございます。

次のページにいかせて頂きます。研究紀要につきましては昨年同様3月に850部発行しております。

「2 市町村が所蔵する関係資料の整理・保存」でございますが、こちらは平成26年度は弟子屈町にある更科源蔵資料について、地元の教育委員会と協議を進めておりましたが、昨年度はこれを統合の作業がございましたので一時中止させて頂きました。

「3 公開事業」につきましては、平成25年度は16点でございましたが、平成26年度は11点となっております。

「4 普及事業」につきましては、センターだより・センター年報・ホームページにつきましては、平成26年度とほぼ同様の実施となっております。

「(4) 資料展及び関連事業」につきましては、例年研究センターが開設された当時に寄贈された山田秀三氏の資料を使わせて頂きながら、企画展「アイヌ語地名を歩く」及び関連講座を研究センターと地元の教育委員会と共催で実施させて頂いておりましたが、昨年度につきましてはリニューアル直前ということもあり同様の体制で実施することはできませんでしたが、4頁めの上段にありますように、登別市郷土博物館特別展『山田秀三とアイヌ語地名』及び関連講座『アイヌ文化講座～学んでわかるアイヌ文化～』を登別市郷土博物館との共催という形で実施させて頂きました。その他の展示等につきましては2頁めから3頁めにあります。一番大

きかったのは開拓記念館と共催でリニューアル予告展を道内11箇所で開催させていただきました。予告展では研究センターとしましては、第2テーマの基本的なコンセプトや展示内容を簡単に紹介するパネルと一緒に、口承文芸の視聴覚映像や今総合展示の方で展示しておりますトンコリ等を展示させていただきました。リニューアル予告展の関連講座につきましては、今金町と別海町を研究センターで主に担当致しまして、その中で研究センターの職員の小川・甲地・田村の他に当時開拓記念館の学芸副館長でありました出利葉さんにもご協力頂いて、資料に掲載してある内容の講座を実施させていただきました。

次に行きます。「レファレンス」につきましてはほぼ平成27年度と同様の数字となっております。

「5 その他」につきましては4頁から5頁にある通りとなっております。

昨年度の総括と致しますと、組織統合のために実施を中止したのも何点かございましたが、関連機関の協力もありましてほぼ例年通りの事業が実施できたのではないかなと思っております。以上で説明を終らせて頂きます。

・アイヌ民族文化研究センター事業推進方針補訂案の説明

小川センター長 続きまして資料6-1「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針、平成26年から31年度補訂版」とありますが、こちら表紙をめくって頂いて、第1の趣旨のところから要点をご紹介する形でご説明させていただきます。

表紙が「補訂版」となっていると、或いは親会議に出られて北海道博物館全体の基本方針等をご覧頂くと、ちょっと体裁等違いますので、少し戸惑われるかもしれませんが、先程ご説明致しましたとおり、旧道立アイヌ民族文化研究センターの事業推進方針を今回下敷きにして、そこに新しく北海道博物館となったことによって、付け加える事業等をこっち側の方へ足す形に致しました。そういった意味で補訂版という形にしております。

最初の趣旨の所から簡単にご説明させていただきます。旧道立アイヌ民族文化研究センターは、平成6年創立されまして、条例を定める設置目的に基づきまして、事業のあり方や内容を当時の研究センターの運営協議会に諮ったうえで、「事業推進方針」として策定致しまして、大体5年もしくは10年単位の事業推進方針を作っていました。そこに書いてある通り平成6年度から10年度の方針、11年度から15年度、16年度から25年度、最後平成25年度に26年度から30年度の事業推進方針を定めさせていただきます。

一方で今回統合になりまして、新しく北海道博物館となりまして、この「北海道立総合博物館条例」の業務内容として、「アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと」と明記されましたので、この北海道博物館の中で、これまでのアイヌ民族文化研究センターの業務を担い続けるというふうになったところです。館としての全体的な使命ですとか、基本的運営方針につきましては平成27年から31年度までのこの5カ年の計画が策定されているということです。

そこでアイヌ民族文化研究センターとしても、新しく統合によってこれまでに加えて、展示等の事業を新たに担うことになった、或いは様々な講座・講演会・ワークショップという情報発信の機会も増えてきた、ということもございますので、平成25年度に策定しました事業推進方針の基本的な方向性はそのままにした上で、新たな要素に対応する部分について、関係する事柄を補訂した形で、北海道博物館の中のアイヌ民族文化研究センターとして、新たに基

本的運営方針を補訂する形で定めるというふうにしたものでございます。ですので、1頁一番下にありますように、この資料は旧道立アイヌ民族文化研究センターの事業推進方針のうち、「機関」・「基本方針」・「事業別方針」について、必要な補訂を行うという形になっております。

2頁目、期間ですけれども、先程申しましたとおり平成25年度決めた時には26年度から30年度の5ヵ年としておりましたが、今回北海道博物館として27年度から31年度の5ヵ年で定めておりますので、これに合わせる形で対象とする期間を平成31年度までとする形にしております。

3頁目、基本方針です。1つ目の「設置経緯と基本的役割」は旧道立アイヌ民族文化研究センターが設置されたところに遡って、簡単に説明させて頂いております。アイヌ文化というのが長い歴史の中でアイヌの人々が培ってきた現在の北海道にも有形無形の大きな影響を与えている北海道の貴重な財産であることと、旧道立アイヌ民族文化研究センター設置以前の状態というのは、長年に渡りましてアイヌ文化を総合的・専門的に研究する公的な機関、また大学の講座というものも設置されておらず、したがってアイヌ文化に関する研究資料が散在する、あちこちに散らばった状態である、或いは未整備のまま放置されている、というものが多かった、一方で伝統的な生活文化を知る古老が減少していて、そういったものをどういう形で伝承していくかという基盤を整備するということが、喫緊の状態であったと考えております。道立の研究センターは、そういった状態に対してアイヌ文化に対する総合的・専門的研究を行うということと共に、必要な資料・情報といったものを収集して整理をしてその成果を広くアイヌ文化の学習・研究或いは伝承活動に提供していき、もってアイヌ文化の信仰に寄与することを目的として設置されたものと考えております。

従って、研究センターの基本的な役割はこの時点では大きく3つありました。1つはアイヌ文化についての研究機関としての役割、2つめは情報センターとしての役割、3つめが学習・伝承や理解の促進に寄与するために、調査研究や資料収集・整理の成果を提供する役割、と考えております。

この基本的役割に基づきまして、2番目の「統合までの歩み」でございますが、最初の10年間平成6年度から15年度までの10年間は主に、立ち上がりの時期として基礎的な資料の整理、その資料の整理の成果を蓄積するということに重点を置いて事業を進めてまいりました。16年度から25年度までの後半の10年間は、そうした蓄積というものを踏まえて、収集・整理した資料を今度は一般に広く公開して、皆さんに使って頂けるようにするための事業、あるいはそういったものを巡回展という形で展示を通してご紹介していく事業ということに重点を置いて進めてきたところです。

4頁めに進んで頂きたいと思っております。3番目のこれからの方向性と重点でございます。特にここは近年の動きについてご説明した上で改めてこの研究センターが担うべき役割について説明させて頂いております。平成20年6月国会においてアイヌ民族を先住民族と認めることが決議されて、政府の方で「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」を設け、或いはアイヌ政策推進会議を設けて、アイヌ民族の振興や国民的理解の促進に向けた色々な取り組みが進められているところです。そういった中で、有識者懇談会の報告書に基づきまして、いわゆる「民族の共生の象徴となる空間」の設立が提言されて、実際に今国立の博物館の建設に向けた準備が進んでおります。北海道の方でもそういった動きに積極的にこうして連携・支援すると共に、道としても「アイヌ文化情報発信ネットワーク会議」を開催するといった取り組みを進めてい

るところです。

それから調査研究という部分でも、平成19年に北海道大学が「北海道大学アイヌ・先住民族センター」を開設して、国際的な研究交流や実践的な文化伝承支援、アイヌ民族政策に対する提言という事業を展開している他、近年文化庁もユネスコの提言を踏まえて国内の危機に瀕した言語の一つとして、アイヌ語の継承・振興を事業として位置付けまして様々な取り組みに着手しているという形で、いわば学術研究の部分でもアイヌ文化・アイヌ語に関する資料の整理・保存の取り組みが進められているところです。

こういった状況は多少手前味噌的な言い方になりますが、私共研究センターが開設以降進めてきた取り組みが、ある意味先駆的意義や役割を持っていたというように評価することが出来るかと思います。したがって今後も基本的な方向性を引き続き持ちながら、近年色々な地域で色々な方々が色々な取り組みをなさっている所との連携、或いはそういった方々からのニーズというものを踏まえながら、道立の機関という立場を充分意識して調査研究・資料情報の提供というところに取り組んでいかなければならないと考えているところであります。

2つめに北海道博物館の設立との関わりです。北海道はこの北海道博物館設立に繋がる直接の動きとして平成22年度に「北海道博物館基本計画」を定めまして、この中で既に北海道博物館の責務として、北海道の自然・歴史・文化に関する総合博物館であるべきことと同時にアイヌ文化を未来へ継承するという役割を、この北海道博物館の重要な使命の一つに位置付けました。そのためにこれまでの開拓記念館に道立アイヌ民族文化研究センターを統合してこの部分の機能を強化するということを打ち出しました。したがってこの北海道博物館の一組織となりましたアイヌ民族文化研究センターは、これまで研究センターとして進めてきましたアイヌ語・口承文芸・伝統芸能といったいわば無形の文化を中心とした調査研究といった事業の他に、開拓記念館で主に進めてきた民具いわゆる有形の物を扱う分野を加えることで、アイヌ民族文化の専門機関として、両方（の分野を）併せ持つ機関ということは、世界でもなかなか類例がない形の組織となったかと思えます。それだけにその設置目的やこれまで進めてきた事業を継承して、より充実させる役割を担っているかと思えます。

従いまして、「(3) 進めるべき事業とその基本的方向」としては、これまで道立アイヌ民族文化研究センターで取り組んできた「調査・研究」、「資料・情報の収集・整理」、それを「公開・提供」していく仕事、あるいはそういったものを通じて「普及・啓発」を図っていく仕事の4つの柱が引き続き軸になりますが、博物館の組織となりましたことを踏まえて「展示」が新たな事業の柱の一つに加わりますし、資料の「公開・情報」の提供していくことに関しても、博物館という器・機能を通じた「情報発信の機能を強化」していくこと、或いは「普及・啓発」を図るといったことにつきましても、博物館として行う色々な講座・講演会・体験学習といったものを通じた「教育普及事業」の強化というものを位置付けて考えております。

(続けて各事業ごとの方向性についての説明)

まず「展示事業」です。博物館におけるアイヌ文化展示は、その展示を見た方がアイヌ文化・アイヌ民族をどのように意識するかということに大きな影響を与えることとなりますので、アイヌ民族の歴史と文化というものがこの北海道博物館の展示の中で大きな柱になるものと位置付けておりまして、最新の研究成果に基づき新しい展示をするということが、兼ねてから求められてきたことだと考えております。したがって、今回北海道博物館リニューアルにあた

りまして、総合展示の中に第2テーマとして「アイヌ文化の世界」を設けるなど、アイヌ文化の展示を総合展示の中でも重要な要素として位置づけております。私共アイヌ民族文化研究センターは、この第2テーマ「アイヌ文化の世界」を担当する形になっております。幸いにして開設以降この第2テーマについては比較的皆様から評価を頂いておりますが、引き続き充実していく所・余地があると思っておりますし、企画テーマ展、博物館として様々に企画するテーマ展や道内市町村を巡回する展示を開催することを通じて、アイヌ文化の振興と普及に寄与していきたいと考えております。

2つ目が「調査研究事業」です。これは先程申しましたように、有形無形それぞれのアイヌ文化に関する調査研究機能を併せ持つ機関となりましたので、アイヌ民族の言語、口承文芸、芸能、民具、伝統的な生活技術といった有形・無形の文化のそれぞれの部門と、それらの理解に欠かせないアイヌの歴史について、基礎的な所から総合的な所まで、或いは学際的な様々な専門分野の垣根を越えたところまでを含めた研究の推進を図っていききたいと考えております。特に近年のアイヌ文化の復興や継承に向けた取り組みの中では、アイヌ語や口承文芸が必須の知見として位置づけられていて、特にこういった部分について信頼性の高い情報についてニーズが高いと考えられていますので、そういったことについて研究に重点を置いていければと考えております。

3番目が「資料・情報の収集・整備事業」です。アイヌ文化に関する学術的に正確な情報の発信をしていくことが大切だと思っておりますので、道内市町村と連携をしながら、各地にまだ所在して未整理な資料が沢山あると思っておりますので、そういったものの保存・整理を進めると共に大学その他の機関と連携して道外・海外を含めたアイヌ語、アイヌ文化の資料・民具或いはアイヌ文化の学習研究の為に必要な情報といった物を蓄積して集約して皆様に提供していきける状態にするという作業を進めていききたいと思っております。

これが次の4番目の「研究成果等の公開・発信事業」と強く関わってきます。これまでも旧研究センターのほうで寄贈を受けました貴重な資料の公開に努めてきた所ですが、まだ公開が終っていない資料が沢山残されております。或いはアイヌ文化の学習等において学術的な信頼に裏付けられた資料とか情報が一層求められていると思っておりますので、そういった資料を引き続き整理をして公開をしていく作業を進めたいと思っておりますし、特に昨今インターネット等様々な情報の手段が広がっておりますので、そういったものを通じた提供方法の拡充を進めていくというような形、或いはデータベース等を充実させていくというところを取り組んでいききたいと思っております。特にそういった調査研究の成果を提供する機会はこれまでも色々な形で行ってきたところがございますが、特に博物館となったということがありますので、アイヌ文化に関する学術情報を色々な形で提供していく、或いはこういったものを皆さんに発信していく基盤や機会等を増やすようにしていきたいと考えております。

それが5番の「普及事業」に関わっております。こうした様々な機能を持っている博物館の役割といたしまして、最新の調査研究の成果を発信していく、或いは分かりやすく親しみやすい形でアイヌ文化に関する情報を提供していくために、いわゆる研究紀要といった論文等を発行する他に、色々な講座・子ども向け事業といった物を実施していく、或いはアイヌ文化に関する理解・促進を図るためのパンフレットを作っていくという形で、将来に繋がるようなアイヌ文化の普及及び理解促進に努めていききたいと考えております。

事業の進め方としては、道内の市町村教育委員会、博物館等の関係機関との連携を一層強化

する形で、なるべくこの博物館を通して道内隅々に行き渡るような体系的・効率的な推進に努めて参りたいと思っておりますし、今回先程議論頂きましたように、こういった方針についてご意見を頂き、尚且つこの方針に基づいて進めた事業のあり方について点検を頂くというふうになっておりますので、事業の進捗状況につきまして、適宜点検頂いて、そういった結果を次年度以降の事業計画・事業内容に反映させるという形、或いは必要に応じて方針の見直しを行うところに努めてまいりたいと考えております。

8頁目以下、「第4 事業別方針」は個別の所になりますので、ここで一旦説明は止めさせて頂いて、ご質問等を受けて改めて説明できるというふうを考えております。

加藤部会長 ありがとうございます。質問がありましたらどうぞ。博物館だって、色んな意味でこれからの話だね。今まで研究センター独自で、活動してきたように。

《質疑応答1》

児島委員 話を伺ったわけですが、資料5に戻りますが、平成26年度の事業実施報告の中で、例えば3頁目の「2014サイエンスパーク」はどういうわけなんでしょうか？2014年の8月6日に行われたということではないんですか？2015？2014？

小川センター長 2014年です。平成26年です。

児島委員 いいんですね。わかりました。2014年度に行われたということですね。

小川センター長 はい。

児島委員 はい、わかりました。

《質疑応答2》

児島委員 私たち専門部会では点検を行うと言うことを7ページ目に「毎年度点検し」とありますが、私たちが点検すると最後に仰ったような気がしたのですが、それは先程の調査審議のことを仰っているのですか？

右代学芸主幹 そうですね。

小川センター長 私共自身も、ある種の自己点検等を行いますし、こちらの協議会でも点検していきます。

児島委員 「毎年度点検し」というのは、内部点検ですか？

右代学芸主幹 はい。内部点検です。

児島委員 はい、わかりました。

《意見・提案1》

児島委員 それでこれを拝読していて、「あれ？」と思うところが所々あるのですが、文言はいいことにしますけれども、例えば5頁の「(3) 進めるべき事業とその基本的方向」を読んでいて、例えば「情報」ってよく出てくるわけで、情報発信というよく使われる言葉なわけですが、それが所々出てきて、その情報発信というのは色々なところに関わってくるわけで、すごく曖昧になってしまう。例えば(3)でこれまで旧研究センターで取り組んできたのは4つの柱を軸にと書いてあるけれども、3頁に戻ると3つに集約されるようになって、研究機関としての役割は調査研究に当たるのだろうと思うと、3つが4つに増えている。そこに展示も加わるという流れになっているのですが、そういう中で情報発信とか普及とかが散りばめられてい

るので、私の感覚では全体では何をされようとしているのかはわかるのですが、文章化したときに曖昧になってどこにでも当てはまってしまうというような仕組みになっている所が少し納得いかない部分であるということだけ申し上げておきたいと思います。そして6ページ、今のお話の中でもあったわけですが、文章的にニーズが、「学術的な信頼性の高い情報のニーズが」というのが、例えば(4)では3箇所?、2箇所?この頁では3箇所?同じ言葉が出てくるのですが、何かしつこいなと。もう少し整理出来ないのでしょうか?

小川センター長 はい、わかりました、整理します。

加藤部会長 ようするにクドイと言っているんでしょう?

児島委員 はい、そうです。

右代学芸主幹 もう少し簡潔にということですか?

児島委員 いいえ、簡潔というより、わざとそう言っているのかな?という気もしますが。

《質疑応答3》

児島委員 それから「貴重な資料」と出てきますが、どういうものが貴重なのか?今までの山田さん、久保寺さんという権威あるという大変ですが、研究上もすでに評価のある資料が貴重なのか、それとも前のページのところで貴重なのも含めたが出てきたが、含めたではなくて、「貴重な資料の保存」、「貴重な受贈資料」となっているのは、一般的ないわゆる名もないお年寄り達の資料は貴重ではないのかも含めて貴重といっているのか、「貴重な」とわざと入れているのかなという気もしますが。その辺が私としては引掛かるのですが。私の意見というより皆さんの意見を聞いてください。

加藤部会長 その他に意見ありますか?

《質疑応答4》

関根委員 あまり詳しくはわからないのですが、もともとセンターというのは移動する前もあまり存在感というのは私の中ではなくて、もちろんこの総合博物館の中に入ったらますます存在感がなくなってしまうというか、もっとセンターらしいPRの仕方というか一般の人たちがセンターを知ることが出来るようなそういうことが出来ないかなと思ったのですが、博物館に一昨日行った時も、大坂拓君がいろいろとやったという話だったり、音声資料等も見せて頂いてすごいと思うのですが、それがひっくり返るまさっちゃってセンターの役割が表面化されないというか、すごい残念というか、研究職員、専門職員がたくさんいてそのチームが表舞台に出られるようなそういう組織、そういう感じになればいいなと思って見ていました。もちろんいろいろな展示事業だったり、いろいろな場所でやっているのはわかるのですが、それはネットで調べたりとか、本当にアイヌ語を勉強したい人達にしか周知されていないので、子ども等にも興味を持てるような仕組み・仕掛けがあって、専門分野だから専門家しかそこには足を運ばないというような状態ではなくて、もっと小学生も何をやっているんだろうというようなもっと身近なセンターになっているのかな?と思い博物館に行ったのですが、事務所にも行ったのですが、もっともっと日陰になってしまったなと思いました。その辺はどうなのでしょう?

小川センター長 ご指摘は多分だいたいその通りなので、来年度以降特に事業については、先程田村の方から説明がありましたけれども、特に昨年度と今年は統合して新しい博物館のオープンということで、館のオープンと立ち上げに関わる所で集中したところもあり、来年度から

は少し目立つ事業でいこうかなと考えております。

加藤部会長 意見として。児島さんの意見としてね。そういう意見の中で何を見出せるかということなんです。別に小川さん何やってるんだとっている訳ではないからね。その他何かありますか？なければ次にいきますが、よろしいですか？

《質疑応答5》

児島委員 1つだけ。6頁の「社会的にもアイヌ文化への関心が高まってきている」とありますが、どういう根拠で言っているのですか？

小川センター長 何をもって高いとかということですが、総対的な目で見ている限りでは、例えば出版物の点数、インターネット上その他における情報の量等といったところで図っているということです。今で充分高いという話ではなく20年前と比べると少しは変わってきていると感じると思いますので。

加藤部会長 いや10年前と比べたら高いよ。20年ってなんて言わない。非常に有難くてね。イランカラプテも、今100社以上が賛同してくれている。そんなこと（以前なら）考えられない。サッポロビールもそうだけど JR もそうだしね。そういう意味では幅広くそのことを評価していると思う。

児島委員 それは、北海道でということですか？「社会」とは北海道のことですか？

加藤部会長 いや全国のことなんだけれども、全国まではまだ（浸透していない）。ただ色々な意味で企業が参加してくれているということは非常に嬉しいなど。

澤田委員 NHKFM でアナウンサーの「イランカラプテ」の呼びかけに、アンジェラ・アキが「イランカラプテ」と返していた。凄いなど。だいぶ前だが。

関根委員 この間も二風谷にFMが取材で来たのですが、そのときも「イランカラプテ」とアナウンサーが言っていました。

加藤部会長 ファイターズの看板も見たと思うが。「開拓」の。素直にすぐ対応してくれたということが有難いです。その他なければ次に進みます。

小川センター長 「事業別方針」のところの説明を少し駆け足でさせて頂きながら、今ご意見を頂いたところにどれだけ応えられるかちょっと、第4の「事業別方針」、資料の8ページ目以降のところ、もう少しざっと申し上げたところの具体的な部分になっております。

加藤部会長 小川さんに話したように、意見を言ったように、しつこい所はしつこいかも知れない。回りくどい箇所は、一生懸命やってるからこの姿になったと思って見てるから、今後作るとき宜しく頼みます。

《事務局説明》

小川センター長 はい。では、まず展示の方は、今展示が新しく加わりましたのでここは力を入れて行きたいと考えておまして、北海道博物館で通常展示しているのが、一般の人は常設展と呼ばれているところで、そこを今総合展示と呼んでいます。その中に定期的に入れ替えしていくコーナーで「クローズアップ展示」という所がありまして、そのところ、或いは「アイヌ文化 Q&A」という形でアイヌ文化の展示をご覧になって疑問に思った所等があればお書きくださいというコーナーを設けておりますので、そういったところの運用をこれからきちんと図っていきたいと思います。

それから今回の特別展の「夷酋列像」については、大変多くのお客様にお越しいただいたのですが、今後もいろいろな形で企画展を開催することにしておりまして、今博物館全体の中の予定でもアイヌ文化を主題とするもの、今後2, 3年間で予定しているものにつきまして今テーマで挙がっているものでいうと「カムイの世界」でアイヌの伝統的な信仰や口承文芸を紹介する展示、それから「北海道の地名」という形でアイヌ語地名を中心とした北海道の地名を紹介する展示といったものが企画で挙がっておりますので、このあたりをきちんとやっていきたいと考えております。

それから、ここしばらく中止していましたが道内市町村を回るかたちで資料を紹介する展示につきましても、「アイヌ文化巡回展」という仮の名称ですが、来年度から再開できればと考えております。

2番目の調査研究事業につきましては、基本的に中身はこれまでを継承する形ですので、ページたくさんありますが飛ばさせて頂いて、14頁から15頁にかけてが、先程同じ言葉がたくさん出てくるという話がありましたが、資料や情報の収集整理、それからそれを公開して発信していく事業の所です。ここにつきましては、今既に館で持っていて、まだ整理が終わっていない、公開出来ていない資料について、整理して公開していくということを進めていく他に、市町村でまだ未整理のまま残っているものについて、道内・道外・海外も含めて収集整理をして使えるようにしていくということ、特に道立の博物館ですので将来的な目標としましては、例えば道内に所在するアイヌの民具については、総合的なデータベースのようなものを組んで、どこにどのような民具があるかという情報をもう少し一元的に確認できて、皆さんが引き出せるようにしていきたいと考えています。

或いは16頁17頁目のあたりですが、道内の色々な関係団体が今特にアイヌ文化の継承に向けて様々な活動を行っておりますし、色々な事業が各地で行われていますので、そういったところに可能な限り協力をしていく、それから博物館という場所を使いまして、これまでも研究センターでアイヌ文化を紹介する小冊子を発行してきたところですが、今度は博物館の展示のガイドブックといった新しい種類のパンフレットを作っていく、或いは今博物館の中に、はっけん広場という名称になりましたが、いわゆる体験学習を中心とした部屋があります。そういったところでアイヌ語・アイヌ文化に関するプログラムをもう少し増やしていく、或いは既にあるプログラムを充実させていくという形でそういったメニューを増やしていく、或いは、今は外からいらしたお客さんをお迎えするという形になっておりますが、本来的な計画としては、いずれ出前講座的な形で出かけていくことも考えておりますので、そういうことにも取り組んでいければと考えておりますし、最初と重なりますが、博物館で行う様々な講座・講演会・ワークショップといったものを増やしていければと思います。以上です。

加藤部会長 はい。

小川センター長 あと資料6-2ですが、これが北海道博物館全体の中期目標・計画を表の左側に置きまして、一番右端の所に北海道博物館全体の計画の中で研究センターに関する部分はどこに入っているかというのに対応した表ですので、今ざっと説明したアイヌ文化研究センターとしての様々な方針や計画と、博物館全体の事業計画がどういった関係になっているかは資料6-2でお確かめ頂ければと思います。説明としては以上です。

加藤部会長 何かご意見があれば、なければ次に行きたいと思います。

右代学芸主幹 それではご質問がないということで、次の議題に進みます。

議題（３）今後のスケジュール（案）

《事務局説明》

右代学芸主幹 資料7を見て頂きたいと思います。一番左側に「博物館」という項目があります。右側には「協議会」ということで、「本会」と「専門部会」ということで書いてあると思いますが、今年度は、本会の方は2回実施していく計画です。専門部会の方は今回1回ということで、年1回お集まり頂いてご意見を頂くということになっております。

具体的な内容ですが、今回は研究センターの事業報告、或いは平成26年度から31年度にかかる推進方針をご説明して、意見をお聞きしたりという様になるかと思っております。今現在評価の方、先程もご説明致しましたが、会長を含め三委員の方でいわゆるどういう評価をしていこうかという所を詰めているところでございます。それが終わりましたら、今年度の3月に（本会の方へ）内部評価を含めた形で、平成27年度の事業計画を含めてお図りしていきたいと考えております。

左側を見ていただきたいのですが、その中では博物館側ではこういう作業を行っていくという年度計画で挙げているところです。今回は色々な意味で博物館オープンということも含めて、評価制度も色々なことが議案になって進めているところでございます。ただきちんとした形でスタート出来ていないということも大きな課題であります。ですので平成27年度に渡っては、その辺りが整備されて、（以後は）博物館側と協議会で上手く事業の評価を含めて進んでいけるのかなと思っておりますので、それも含めて28年度、29年度という計画で、今のところこういう形ではありますが、作業部会の評価の方法も含めて若干内容も変わるかも知れませんが、このような予定で考えておりますので、ご理解頂ければと思います。以上です。

議題（４）意見交換・情報交換

加藤部会長 ありがとうございます。スケジュール等宜しいですね。意見交換でいいですか？何かありますか？

《意見・提案1》

澤田委員 よく祭司をやるのにイナウとか作るんですよ。ストゥイナウ？脇に立っている、神様って脇で細いやつを使っている、それを作るときにはペラ3枚つけて3段のペラは何のためについているのかとか。ペラというのは羽だから。だから飛ぶんじゃないとか、お土産にチェホロカケブ？小さいやつ、あれを前につけて。それでとりあえず一組なんだけど。よく聞かれるのが何でストゥイナウにペラがついているのかとか、なんでチェホロカケブがあるのかとか、それはよくお土産に持たせるんだけど、それが一組になって天界に飛んで行って、そのペラが飛んで行って、それが何かの戦いがあるとか、そういう話は多少聞いたことはあるが、そういう文献とかがなかなか見られない。あとチェホロカケブ？アペフチカムイに立てているチェホロカケブ？それを抜いて穴を埋めなければ、向こうの世界に引きずり込まれる？そういう話って結構貴重だよ。そういうのが（他にも）ないのかとか。あと神様作るとき、キケパラセとキケチノイエイナウ。まあ似た様なものがあるのだが、パラセは女の神様だがキケチノイエイナウは男の神様。だけどそれが葛野エカシ？か何かで見たのだが、男神が女の姿で、要するに女の姿で神様からもらって女の神様に与えるから、だから男神は女のキケパラセを作らなきゃ駄目だとか、葛野エカシの何かに書いてあるのをみたことがある。そういうのを研究して

成果とかあるのかなど。

小川センター長 こちらで今そこを直接専門にしている者はいないのですが、先程言った情報の提供をきちんと出来る様にしますというのは、たぶん今お話になったようなことについて、葛野さんの本とかはデータベースになっております。道の教育委員会のほうで、今日欠席されましたが、大島先生がずっと20年くらい聞き取りした報告書があります。そういったものを例えば全部データベースにしておいて、イナウって引くと関係するものが出てくるという物が作れば、だいぶ違ってくると思います。

澤田委員 作っているときには半信半疑でね。今回札幌医大でやったのはキケチノイエイナウだったから、前からそうやっているからとりあえずそう習ったのだが、普段やっているのはパラセとキケチノイエイナウだから、半信半疑でやっているスタイルだからね。

《意見・提案2》

加藤部会長 あとご意見ありません？

関根委員 色々リニューアル予告展とかやっていますが、子供向けをもっともっとお願したい、どうしても私もアイヌ語子ども教室とか行って、子どもに向けての、子ども達これから情報発信する、繋いでいくので、子供向けのを重視して子どもに向けての、まあ難しいのは大人が勝手に調べればいいやという感じですが、子どもの目線を引きつける何か仕掛けとかそういうのをやっていったほうがいいと思います。出利葉さんの「アイヌ民族の狩りとわな」とか夏休みに向けて、子ども達が、せっかく博物館があるので自由研究に出せるようにいっぱい色々な人達もいるから、アイヌ文様だったり等、子どもを引きつける何か仕掛けをもっと増やして欲しいと思います。

加藤部会長 はい。開館・オープンということで、非常に色々な意味で忙しかったと思うね。今この資料を作るだけでも大変だったのかなと思いついて見ましたが、資料を作るのが仕事ではなかったのかなと思いついて見ただけけれども。これからは色々な意味では色々な人の話を聞きながら一緒に進めていくことだなと思っております。

つかぬ事を聞きますが、今回「夷酋列像」の関係で松前町が意外にアップされている部分があって、副読本を作っているんだよね。街自体で子どもらの副読本を作っている。それがきちんとされているらしい。よく見ていないから今取り寄せようとしているところで、まだ見ていないが、それは歴史的背景の負の歴史もありながら、色々なことを隠すことなく作っているということを知っていたので、これからも北海道の置かれてきた位置付け、山田（秀三）さんだけでなく、（松浦）武四郎もいるのかなあと。三重県の武四郎の開館ではね、小学校中学校の生徒が人権劇場をやっているんですよ。

右代学芸主幹 博物館の隣が小学校ですね。

加藤部会長 隣がそうそう。人権に関わる劇をやっている。武四郎のそれを題材にして。それって知られていないが故にね、やっぱりそういうことをこれから先程（児島）先生が仰ったように、アイヌがどれくらい知られているかという意見もありましたが、そういう意味では、10年前と比べたら天と地の違い位知られてきたかなと思う。まずは北海道の公立大学に研究センターが出来たというのが、アイヌの理事会の中で、アイヌに出来なかったんだから。アイヌという言葉を使うことが出来なかったんだから。この何年か前の話。それを北海道の北大で今回功労賞を貰った中村元総長が北海道大学アイヌ・先住民研究センターというところを（作っ

たことに)、私は驚いたね。あの時ね。本当に嬉しかったですよ。公立の大学で使ってもらったということがね。そういうことの積み重ねで今日あるのだから、ややもするとほとんどが武四郎のアイヌ語地名ですよ。そういうことも含めて一遍にやれとは言いませんので。今回知らないでやって、ファイターズのことでは新聞やテレビに出るようなことになっちゃったことでもありますから、同じ北海道にいても誤解されるということもあるので、共にやっていくということだと思っているので、宜しくお願い致します。

《意見・提案3》

関根委員 最後になんですけど、この巡回展とかもですが、道北って結構（アイヌのことを）知らないんですよ。以前小平町の鬼鹿中学校に行ったときに、アイヌ民族を知っていますか？と聞いても殆どの生徒が知らないというのが現状で、もちろん小平とかもそうですが、せっかくなので地名の授業を出前講座で道北の方とかもっと展開していったほうがいいかなど。今函館が（話題に）出たので。来年1月にも函館に行くのですが、函館も学校の授業であまりやっていなくて、函館もだんだんとアイヌ文化に興味を持つ子供が出てきているということを先生から聞いたりとかもしているので、道北の方はもっともっと知らないの、道南ではなく道北の方でももっとやってほしいと思います。遠いんですけど。

石森館長 最後に一つ宜しいでしょうか？今会長のご指摘の松浦武四郎との絡みで申しますと、2018年北海道博物館特別展が「松浦武四郎展」にしようと思っているのですが、例えば部会長からご指摘のあった物を取り入れさせて頂いて、アイヌ民族との絡みを是非とも中にきちんと組み込みたいと。それと関根真紀さんから（意見が）ありました、この前もお子さんたくさん連れて来て頂いたのですが、子供達のためにということが非常に大切だと思いますし、酒井さんの名刺の中にも「かけがえのない文化を未来へ伝承する」というのも本当に大切なことですので、やはりご指摘のございましたアイヌ系の子供達だけではなく、北海道に暮らす子供達全てがアイヌ民族文化へよりきちんとした認識を持ってもらい学習し、体験し、楽しんでもらうことが大切だと思いますので、貴重なご意見をありがとうございました。

加藤部会長 偏った考えでなくて共に歩むということで、共生の社会をどの様にしていくか。今回酒井奈々子さんの所なんかはね、保存会で北海道で唯一非常に小さい子どもさんから大人まで若い人が多いんですよ。それは彼女はよくやっているなあと思ってね。この前行ったとき見せてもらったんですよ。そう意味ではそういうところから物が生れてくるしね、この間文化庁の会議があってね、話したら隣の人が涙を出していたと言われたけれども、色々な意味でその歴史的背景を少しずついいから、まずは道民からと思うんですよ。ただ私が武四郎の話をする、全部武四郎の原日誌を講演で語ると、本州で語ると皆顔が曇ります。曇る！語れない！語れないと思った！だから語らないことにした。だけれどもそれも少しずつね、何らかの形で取り入れて行ったほうが有難いなあと思う。

石森館長 ありがとうございます。

《意見・提案4》

関根委員 差し出がましい話なんですけど、子供達の見方でアイヌ文化の歴史を知ってしまうとすごく暗い気持ちでアイヌ文化に入ってきてしまうので、やっぱり楽しく遊んで学んでアイヌ文化を知った上で成長していく中で高校なり大学に入っていくところで、自分達でアイヌの歴

史・文化そういうのを知る方が、私はいいとっていて、私がどこか（講演会等で）話に行くときは、必ず私はアイヌ（民族）で、楽しくやっていますという、子供がアイヌ文化に入って来やすいようなそういう受け入れ、だから最初からアイヌは虐げられてきたというような展開をしていくと、子どもはアイヌ民族は差別されてもいい民族だと頭の中に入れてしまうと思うので、博物館で楽しく学ぶという子どもの歴史というか、男の子が自分の過去を振り返るといふあれは（総合展示第2テーマの「1. 現在を知る」の展示は）、すごくいいなと思ったので、ああいう感じで今現在の人達が楽しんで入れるようなそういうような展示、それでお願いしたいと思います。

6 閉 会

加藤部会長 はい。以上なければ。事務局もなければ。

右代学芸主幹 はい、事務局も特に用意はありません。ありがとうございます。

加藤部会長 宜しいですか？あと意見はありませんか？それでは今日はありがとうございました。

右代学芸主幹 これをもちまして会議を終らせて頂きます。どうもありがとうございました。